(別添4)

【日向市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申(令和3年1月)及びそれに続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。これまでの先進事例等による研究から、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と「ICT活用」はベストミックスであると言われるように、これらの実現において、1人1台端末の活用は、重要な役割を担っている。

さて、今回の端末更新を行う中学校8校においては、それぞれの学校や児童生徒の実態等に応じ、GIGAスクール構想により整備されたICT環境のもと、研修や授業研究を行い、1人1台端末の効果的な利活用に向けての実践を図ってきた。今後、GIGAスクール構想第2期に向けて、リーディングDX指定校等の先進事例等も踏まえた上で、以下のような児童生徒の学びの姿を目指していきたいと考える。

まず、「個別最適な学び」の実現において、児童生徒は、1人1台端末を通じて、個々の理解度や学習ペースに合わせた、より1人1人の児童生徒の実態に応じた学習計画に基づいて学びを進めるものとする。

また、「協働的な学び」の実現において、児童生徒が、他の児童生徒、地域の方々、専門家等とチャットやオンライン会議でつながり、課題解決に取り組む機会をより増やしていくことで、多くの他者の考えに触れ、自己の考えを広げ深めることができるようにする。また、グループワーク等を通じて、多様な他者と協働することを通して、現実社会で必要とされる非認知的スキル等を身に付けさせたい。

2. GIGA 第1期(～令和5年度まで)の総括

本市では、平成28年度～平成30年度に605台、令和2年度、3年度に4,511台の1人1台端末の整備を行った。また、令和2年度には分校を除く全ての学校の通信ネットワーク整備を行い、大容量通信ネットワークや周辺機器等も含めたICT環境の整備が完了している。さらに、ネットワーク整備については、令和4年度に、小学校3校のネットワーク環境改善に向けた対応を行った。

これらICT環境の整備に加え、市教育委員会では、教員の研修の充実を図り、教員のICT活用指導力の向上に計画的に努めてきた。これらの取組を通して、本市における教員のICT活用指導力(文部科学省:「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」)は、年々向上しており、今後もこれらの取組の継続が望まれる。

しかし、本市においても、授業におけるICT活用や校務DXの推進状況について、学校間での取組の差が生じてきている。

そこで、教員のICT活用指導力のさらなる向上を目指し、全ての学校が授業や校務において、積極的にICTの活用を図ることができるよう、これまでの取組に加え、ICT支援員による授業支援活用の推進や各種研修会でICT活用をテーマとして取り上げるなどの取組を進めてきた。

これにより、教員がICT活用について、協働的に対話を行うとともに、互いの教育実践からICTを活用した指導法や校務DXの改善について学び合う機会をつくり、児童生徒の発達段階に応じた効果的なICT活用の在り方について研究を深め、本市が抱える課題解決につなげていきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市では、令和7年度に中学校の端末更新を計画しており、更新にあたり各学校及び関係各課が情報共有を図りながら、更新作業を進めていく予定である。さらに令和6年度に実施したネットワークアセスメントの結果を踏まえネットワーク環境の改善を図り、児童生徒にとって、さらに充実した1人1台端末環境を維持していくことを目指したい。

これらICT環境の充実を前提として、1人1台端末の効果的な利活用推進に向けて、次の3つの視点から目標達成に向けてその具現化に努めたい。

(1) 1人1台端末を積極的に活用するために

本市小・中学校では、これまでも授業や校務におけるICT活用に関する校内研修を実施し、市や県、外部機関が実施する研修会にも教員が積極的に参加している。

今後は、各学校のニーズや課題に応じた研修を実施するとともに、ICT担当者が参加する本市主催のICT研修会やICT授業研究会での学びを各学校における研修に生かしたり、校務支援システム等による情報の提供を行ったりすることで、全ての教員へ効果的な利活用についての情報共有を図りたい。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実を図るために

児童生徒が「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」において、積極的に1人1台端末を活用することができるよう、ICT研修会等において、具体的な活用事例の情報共有を図っていく。また、市内の教員が情報共有できるためのクラウドを活用した仕組みをつくり、広く周知を図りたい。

さらに1人1人の児童生徒の実態に応じた学びを進めるために、リーディングDX指定校等の先進的な取組について紹介し、各学校において研究が深まるようにしたい。

(3) 全ての児童生徒の学びを保障するために

不登校の児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒等に対し、1人1台端末を活用することで、学びの幅を広げ、さまざまな状況の児童生徒の学習機会を確保していく。各学校の実態にもよるが、1人1台端末を活用し、希望する児童生徒に対し、教育相談を行ったり、オンラインでの授業を行ったりすることが考えられる。

4. 今後の計画について

これらの現状等を鑑み、今後は以下の項目について重点的に1人1台端末の利活用を推進する。またそのための具体的な取組を各項目ごとに設定する。(全項目とも令和6年度から取組を推進する。)

○ 研修等の充実

- ・ ICT活用等に関する研修をできるだけ多くの教員が受講できるように、オンラインを併用したハイブリッド型を取り入れるなど、研修の在り方を工夫する。
- ・ 個別最適・協働的な学びの充実のために、ICT研修会にて具体的な活用事例を共有する。

○ 教員への情報提供

- ・ 校務支援システム等を活用し、端末の利活用に関する情報提供を行う。
- ・ 個別最適・協働的な学びの充実のための情報共有の仕組み(教員向け)を、クラウドを活用して作成する。

○ 全ての児童生徒の学びの保障

- ・ 不登校や日本語指導が必要な児童生徒等へのオンラインを活用した指導の充実を図る。